

2025年度 授業改善アンケート第1Q「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

No.	講義名	期間名	氏名	教員コメント
1	日本事情	1 Q	佐藤 恵利	今期は今までコロナ禍で抑えていた課外活動も行うことができた。今後も学生のニーズに合わせ、体験を通して日本文化や日本事情の知識を深められるよう努めたい。
2	哲学	1 Q	尾崎 有紀	授業改善アンケートの結果から、シラバスと講義の内容、および講義の進め方の点で、概ね学生側の知的な要求と意欲に応えることができたことが読み取れる。一方、課題やテストの実施形式は、必ずしも全員にとってアクセスの良さを感じられるものではなかったようである。teamsを活用する頻度を増やすことなどによって、この点を改善していきたい。
4	基礎英語Ⅰ（M-信濃）	1 Q	信濃 吉彦	概ね好評評価を頂きありがとうございます。Aiが進み英語に関しては、ほぼ同時翻訳が可能な時代ですが、基礎を学ぶ程度の自信と基礎力がないと楽しくないのではないのでしょうか。万事、楽しんだもの勝ちです(笑)(笑) 楽しみながら勉強できるように考えましょう！！
5	基礎英語Ⅰ（M-岡島）	1 Q	岡島 徳昭	英語を苦手とする学生に対し質問の機会をさらに増やし、基礎力向上に努める。
6	基礎英語Ⅰ（M-石田）	1 Q	石田 暁子	明るく元気の良いクラスで、楽しく授業を進めることができました。「基礎英語Ⅱ」は教科書の続きになりますので、また予習復習をよろしく願いいたします。
7	基礎英語Ⅰ（M-井坂）	1 Q	井坂 肇	授業の理解度、満足度は概ね良好であった。今年度からテキストを変更し、映像をより活用したスタイルにした効果が出ていた。 演習の授業なので、各学生の語学力に応じた対応を取れるようにした点も評価してもらえた。 一方、中間・期末テストの成果を確認すると、十分に理解できていないことが分かった。 単語に関する知識の不足が、文法にも多大な影響を与えているので、このあたりへの取り組みが今後必要になると思います。
8	基礎英語Ⅰ（SDA-西崎）	1 Q	西崎 毅	「授業満足度」は、「満足した」以上が100%、「話し方」「熱意」は、「そう思う」以上が100%、「教材の適切さ」は、「適切だった」以上が100%でした。「先生が『分からないことは小さなことであってもなんでも聞いて！』と言ってくださる事によって、誰にとっても質問しやすい環境であったこと。」「文型マンのTシャツが分かりやすかったので今後もそういうのを沢山作って欲しい。」「文系マンTシャツや、お菓子といった具体例をいっぱい出して分りやすかった。」「高校の授業の振り返りに楽しく行えた。」「西崎先生が英語、そして人に教えるのが好きなんだろうな〜、と強く感じた。」「発音が綺麗で、英語が聞きやすかった。」「いちらから丁寧に教えてくれて、出来なかった文型の理解が分析したり読むことが出来るようになりました。」「わからないところがある人がいないかを都度確認し、全員が英語の土台を固めて形成できるようにしていたことで全員が理解を深めることができていた。」等の評価を励みに一層の改善に努めます。
9	基礎英語Ⅰ（SDA-宮嶋）	1 Q	宮嶋 達也	設問11の自由記述に関するたくさんのフィードバックをいただき、ありがとうございました。どれも参考になる意見ばかりで、今後のモチベーション向上につながると思っています。対話を中心とした実践的な英語学習の場は、多くの学生にとって楽しく、学びやすいものだったようです。特に、英語を話すことへの抵抗が減り、コミュニケーション能力が向上した点は大きな成果です。一方で、グループワークの組み方や授業の進め方について改善の余地があり、交流の機会を増やし、授業の構成を統一することで、より良い学習環境を作りたいと考えています。
10	基礎英語Ⅰ（SDA-横田）	1 Q	横田 肇	項目の内、「理解できなかった」、「興味がもてなかった」がやや多かったのが残念。スライド・パワーポイントに比べて板書の評判が悪い点も考えさせられる。説明が迷走気味という指摘もあった。不評であった点は早速、IIで改善したい。特に、よりポイントを絞り、雑音のない説明と教科書とのリンクに留意して授業を進めたい。
11	基礎英語Ⅰ（SDA-井坂）	1 Q	井坂 肇	授業の理解度、満足度は概ね良好であった。今年度からテキストを変更し、映像をより活用したスタイルにした効果が出ていた。 演習の授業なので、各学生の語学力に応じた対応を取れるようにした点も評価してもらえた。 一方、中間・期末テストの成果を確認すると、十分に理解できていないことが分かった。 単語に関する知識の不足が、文法にも多大な影響を与えているので、このあたりへの取り組みが今後必要になると思います。
12	ドイツ語入門Ⅰ（M）	1 Q	河田 一郎	「とても分かりやすい講義でドイツ語に興味を持てました」 嬉しいコメント、有難うございます。多くの学生さんにそう思っていただけよう努力を続けたいと思います。テキストの内容に関するご指摘がありました。参考になりました。持ち込みに関しては、皆さんの理解度を見ながらの判断になりますが、なるべく早い段階でお知らせしたいと思います。「テキストのページが行ったり戻ったりして少し分かりにくいと感じた」とのご指摘ですが、初めての言語をより分かりやすく解説するためのページの移動になります。ページ移動の際には、なぜ移動するのか分かりやすく説明をしていきます。
13	ドイツ語入門Ⅰ（S・D・A）	1 Q	河田 一郎	この授業の満足度が87%で、概ね満足していただけたようで良かったです。「英語とはやはり違う点が多くて難しかったけど分かりやすくてとても身につきました」、このように思ってくれる 学生さんが増えるよう授業を改善していきたいと思います。 今後の改善点として、以下のような取り組みを考えています。 ①学生の私語について：静かに聴きたい学生さんが損をしないように、状況に応じて対応していきたいと思います。 ②テストの問題数、配点について：今後は問題数を増やし、配点も記入するつもりです。 ③テキストについて：より分かりやすいテキストを作成していきたいと思います。 ④黒板の使い方について：見やすい板書を工夫したいと思います。 ⑤試験会場・カンニング対策について：受講人数に応じて、できる限り教室を調整したいと思います。試験中のスマホを使用したカンニングには厳しく対応していきます。 ⑥単語の読み方・ダウンロードについて：初めて出る単語の読み方はカタカナで示します。発音等のダウンロードができるように、QRコードを配布する予定です。 ⑦出席について：システムが変わったため、不手際があり、ご迷惑をおかけしたことをお詫びします。皆さんの集中力が途切れないように、授業の最後に出席を取るようにしたいと思います。 そのほかにも希望がありましたら、気楽にお知らせください。
14	ソーシャルワークの基盤と専門職	1 Q	櫻井 美帆子	受講者が多かったので、すし詰め状態で授業となってしまう窮屈な思いをさせました。 受講態度が良い学生が多く、更に活発に質問をしてくれたので、とても授業のやりがいがありました。 なお、パワーポイントのスキルについては、不細工かつ見づらいもので申し訳ありません。最近新しい技を覚えたので、かっこいいものができるはず、今後ご期待ください！
15	医学概論	1 Q	宮崎 剛司	各項目において「適切ではない」との回答がなかったことに安堵することなく、今後はさらに多くの学生から「適切であった」との評価をいただきたいと思います。 具体的には、講義中にクリッカーなどを更に活用し、学生の声をこれまで以上に取り入れながら講義を進めていきたいと考えています。
16	障害者福祉	1 Q	畠山 明子	コメントありがとうございます。試験の難易度については例年通りですが、配布資料や教材内容の検討等、より理解が深まるように今後も工夫していきたいと思っています。
17	福祉サービスの組織と経営	1 Q	大島 康雄	適切でないと感じている方もいらっしゃるのですができる限り皆様から納得してもらったり、学びを深めてもらえるような取り組みをしていきたいと思っています。
18	西洋美術史Ⅰ	1 Q	竹内 美帆	パワーポイントや配布資料の提示が適切であるとのコメントが多く、アンケート結果にも反映されておりよかったです。授業時に動画を視聴したことも、多くの学生の心に残っているようなので、今後も続けていきたいと思っています。美術史の内容に関心を持っている学生が多く、良かったです。
19	建築環境Ⅰ	1 Q	佐々木 哲之	授業の理解度を確認しながら授業展開をしていくことが大切な科目である。アンケート結果は概ね満足できる結果であった。しかし、設問6理解度を確認しながら授業を進めましたか。設問8授業の内容は理解できましたか。において10%の学生ができなかったと回答しておりこれは今後の課題である。
20	建築法規Ⅰ	1 Q	佐藤 善太郎	法規Ⅰはその後のⅡⅢⅣに続く為の基礎となる科目です。聞き慣れない言葉も多くて、ちょっと目を離すと置いていかれちゃう油断のできない科目です。時間の関係で、説明が足りなかった部分があったと反省しています。復習の時間ももう少ししこめに行う事を考えます。板書については毎年言われていることですが、黄色を止めてその時のもう少し見やすい色を模索して丁寧に書くのを心掛けます。板書を全部パワーポイントにするのは時間的にキツイです。
21	福祉環境計画論	1 Q	佐々木 哲之	受講した学生はこの科目に非常に興味を持ち受講してくれたと思う。アンケート結果は全体的には概ね満足できる結果であった。ただ、最終課題への取り組みに対して時間が不足していた。この事が今後の課題である。
22	経営学総論	1 Q	信濃 吉彦	概ね好評評価だったので胸をなでおろしております。ノートの量は高校とは比べ物人バラないと思いますが、基本的にはこれでも足りないくらいです。知らないことを知る努力に時間と労力を少し分けてください。加えて、自分が知りたい・面白いと感じたことはどんどん突き詰めてください。将来あなた自身を助けることになります。
23	経営管理論	1 Q	天野 雅斗	多くの学生から授業の分かりやすさや資料の見やすさに高評価を得られた一方で、スライド進行の速さやテストレビューの明瞭さに課題がみられました。次年度は、進行の工夫や確認テストの導入、アクティブラーニングの強化を通じて、理解の定着と主体的な学びをさらに促進していきます。
25	スタートアップ 演習（S）	1 Q	松下・後藤	2025年度は、第1回 社会福祉学科DP説明（学科長）、第2回 学務履修手続き（学務課）、第3回 アセスメントテスト受検手続き（IR課）、第4回から第16回 アカデミック・レポート作成法（後藤、松下）について、学修をすすめました。今年度の指定テキスト（桑田てるみ：2015）は各課ワークシート提出がありました。「論理的な考え方」（後藤先生 オリジナルPPT）は、Forms回答作業がありました。みなさんから提出されたレポートやForms回答など、これまでの学修成果に加え、授業アンケートの自由記述欄「レポートの書き方について具体的な作業を増やしてほしい」などの意見をふまえ、次年度の授業設計について共同担当教員と協議をすすめてまいります。
26	スタートアップ 演習（D）	1 Q	三上 いずみ	学生同士の交流や協働作業を通じて、大学生活の基盤づくりに貢献できた点は大変有意義でした。次年度は制作時間の確保や負担の偏りへの配慮、目的の明示、先輩との交流方法の工夫などを通じて、より充実した学びの場を目指します。
27	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1 Q	上原 正希	理解できなかったなどが各項目で見られるので、そこはなるべくすようしていきたいと思っています。 その他、「大きな声での授業」、「国家資格に出る部分を伝えること」、「説明が分かりやすかった」については継続したいと思います。 出席カードの配布回収、黒板の字の濃さには気をつけたいと思います。
28	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1 Q	櫻井 美帆子	受講態度が良い学生が多く、更に活発に質問をしてくれたので、とても授業のやりがいがありました。 なお、パワーポイントのスキルについては、不細工かつ見づらいもので申し訳ありません。でした。最近新しい技を覚えたので、かっこいいものができるはず、今後ご期待ください！

2025年度 授業改善アンケート第1Q「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

No.	講義名	期間名	氏名	教員コメント
29	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	1 Q	大島 康雄	理解してくれた方が大変でしたがもっと学びや学習がスムーズに行えるような取り組みや考えやグループワークなども含めてアクティブラーニングができるような授業構成にしていきたいと思います。
30	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	1 Q	畠山 明子	コメントありがとうございます。配布資料や教材内容の検討等、より理解が深まるように今後も工夫していきたいと思います。
31	精神保健福祉の原理Ⅰ	1 Q	西野 克俊	授業の満足度については、満足できた以上が100%となっており、一定以上ご満足いただけたのかと思います。コメントにおいて、教科書の使用の仕方についての指摘もありましたので、次年度以降の検討事項としたいと思います。
32	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅲ	1 Q	西野 克俊	授業の満足度については、満足できた以上が100%となっており、一定以上ご満足いただけたのかと思います。コメントにおいて、わかりやすく丁寧と称賛いただきとてもありがたいです。今後も引き続き満足いただける授業展開をしたいと思います。
33	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅳ	1 Q	西野 克俊	授業の満足度については、満足できた以上が100%となっており、一定以上ご満足いただけたのかと思います。コメントがなく、満足していただけたものの、可もなく不可もないということとしますので、引き続き工夫してまいりたいと思います。
34	精神保健福祉援助演習Ⅲ	1 Q	上原・大島	そもそも回答率が低い。教員側の声かけの問題でもあると思いますので、しっかり答えてもらえるようにしたいと思います。是非、アンケート以外の時でもコメントを頂けると幸いです。
35	発達心理学Ⅰ	1 Q	蝦名 美穂	この講義は、テストの点数だけではなく、日頃の授業への取り組みも評価に含まれています。試験を3回に分けることで、1回毎のテスト範囲を限定することで、学びが定着しやすいように配慮をしています。できるだけ、皆さんの努力を評価することを心掛けております。
36	保育原理	1 Q	吉江 幸子	保育原理の受講、ありがとうございます。保育系科目の入り口ともいえる概論の授業なので、「難しい」という感想もいただきました。それでもアンケート結果ではすべての項目で「とても適切・十分適切」をあわせて90%以上の評価をいただきました。例年、学生の理解度の項目で、70%程度の回答でしたが、今回は「とてもよく理解した・十分理解した」が90%以上となり、学生の理解度がアップしたことによってちょっと安心しています。学生の皆さんが、話を聞きながら書き留める（PC入力する）姿に、中学・高校でICTの活用が浸透していると感じました。今後も短文解説を含め、学生の皆さんに分かりやすい授業進行を心掛けたいと思います。
37	特別支援教育総論	1 Q	堀川 厚志	全ての講義は、テストの点数だけではなく、日頃の授業への取り組みも評価に含まれています。試験を3回に分けることで、1回毎のテスト範囲を限定することで、学びが定着しやすいように配慮をしています。できるだけ、皆さんの努力を評価することを心掛けております。
38	精神保健福祉援助演習Ⅰ	1 Q	上原・大島	このままの評価を見ると「非常に興味関心も思ってもらえた」ということで、非常にありがたく感じます。しかし7名中5名の回答ということで、2名が未回答ということになります。この2名は否定的な意見であれば、大幅に評価は異なります。今度はアンケートをしっかりと全員にやっていただけたようにしたいと思います。
39	障害児保育Ⅰ	1 Q	坂上 俊樹	授業内容に興味関心を持っていたということが分かりましたが、授業内容の精選と時間配分の工夫に努めなければならないと思います。
40	人文地理学Ⅰ	1 Q	塩崎 大輔	今年度は回答結果にばらつきがあり、また理解度が不十分な学生も見受けられた。来年度はまずシラバスの確認をより十分に行い、より丁寧な説明と、理解しやすい資料の提示を行う。
41	カウンセリング論	1 Q	蝦名 美穂	履修登録の際に、この講義を受講するにあたってのルールについてはお話をしております。可能な限り、ご指摘の遅刻やテキストを購入しない受講生への注意喚起をしておりますが結果として表れていない部分があります。今後それによって、その他の受講生への不利益とならないように配慮したいと思います。
42	発達障害等教育総論	1 Q	堀川 厚志	各項目1名を除きほぼ適切であるとの評価であった。各項目1名の適切ではないとする理由については、その件に関する記述がないため確かではないが、今後も発達障害等の教育に関する内容の理解が深められるよう提示資料のバージョンアップを実施し、各項目について改善、向上するよう努めていく。特に記述欄にある具体例を加えた説明等を今後もバランスよく加えていくよう努めたい。
43	日本政治史	1 Q	後藤 啓倫	受講生の皆さん、授業大変お疲れさまでした。この度はアンケートの回答にご協力いただきありがとうございます。また、毎回の授業ではしっかりとした感想や質問を出してくれて本当にうれしく思います。みなさんの声をしっかりと受け止めて、より良い授業づくりに生かしていきたいと思ひます。
44	スクールソーシャルワーク論	1 Q	上原 正希	シラバス・話し方・時間配分・板書とパワーポイント、教材、理解度など全体的に評価が高かったのも、より高く浄化されるようにしたいと思います。
45	子ども家庭支援論	1 Q	杉本 大輔	平凡なアンケート結果に猛省する。
46	デザイン概論Ⅰ	1 Q	北嶋 洋一	時間配分や授業のボリュームなどに難点があったようで、話すスピードなども含めて最も改善が求められている点であると感じた。授業の内容が難しいとの意見もあるようだが、デザイン分野に於いては基本的な知識付けに必要な内容なので、これを軽量化するわけにはいかない。但し、もっと図版や動画などの視覚効果を用いて、分かりやすさについては工夫していかなければならないものと考えている。講義の中で、学生一人一人の理解度を確認しながら授業を進めるのは非常に難しく、そのために必要な方法を考えなければならない。
47	WEBデザインⅢ	1 Q	山腰 雅樹	本年度からカリキュラムを変更していましたが、少々授業展開が早すぎた面もあったようです。可能な限り丁寧な指導を心がけていますが、より各個人の進捗具合を見定めながら進めていこうと思います。理解度は概ね問題なさそうですが、理解が深まることでWEB制作に興味をもってもらえる可能性も高まりますので、分かりやすさについてもさらに追及していきたいと思ひます。
48	インテリアデザインⅠ	1 Q	赤木 良子	今回は、デザインに特化した課題と実践の課題とでバランスが良かったように思ひます。それが、みなさんの肯定的な評価に繋がったのかもしれせん。また、評価に関して、今回行ったような、学生の評価を反映してほしいというコメントをありがとうございます。できる限り、今後も反映していきたいです。
49	東洋・日本美術史Ⅰ	1 Q	苔名 真	縄文から現代まで長い日本美術史を急ぎ足で辿る、やや詰め込み過ぎの内容であったにもかかわらず、皆さんとても熱心な姿勢で受講してくれました。日本美術に対する理解や興味が深まったというコメントを多くいただき、ほっとしています。第3Qの「東洋日本美術史Ⅱ」では通史ではなく毎回さまざまなテーマを立てて「深掘り」していきますので、ぜひこちらも受講してください。
50	建築史	1 Q	赤木 良子	今回は予習中心に小テストを毎回やりながら授業を進め、同時に手を動かして建築を知るということをやってみました。実験的な部分がありました。制作時間が十分に足りなかったグループもありましたが、概ね好評であったのだと知りました。また、予習に対してネガティブな反応が多いのかなと思ひていましたが、コメントでは多数のポジティブな評価があったため、予習→小テスト→解説という流れも、今後行うのは可能だなというふうに感じました。少しでも建築史に興味を持っていただけという感触があったため、良かったです。コメント等ありがとうございます。
51	建築計画Ⅰ	1 Q	安藤 淳一	ご指摘いただきました演習のプリントの扱い（返却時期）とテストの期間とに改善が必要であること、承知いたしました。次年度以降、演習の提出・返却とテストの日程から、これまでの方法の見直しをおこないます。授業内容については、これまで以上に取り上げる情報の精査をおこない、必要な情報に時間をかけ、丁寧な説明ができるよう改善していきます。
52	施工管理技士演習Ⅱ	1 Q	小笠原 健	この「施工管理技士演習Ⅱ」の講座は、本年7月20日(日)に開催される「1級建築施工管理技士学科検定試験」の国家資格対策講座になります。その資格試験は昨年度より、大学在学中に受験できるように改正となったことで、他大学に先駆けて一昨年度から開講した対策講座となります。昨年度が大学生受験一期生で、本学より3名が合格できました。この結果により、昨年度は新聞各社からの取材申込みがあり、新聞記事が各社に掲載されるなどの社会的に大きな評価を受けた実績ある講座になります。しかしながら、今年度の講座でも履修者の中には、毎回の講義には出席するものの、毎回の小テストでは非常に低い得点しかできず、定期試験でも2名が落第しています。このように国家資格対策講座である以上は、本試験までモチベーションの維持と毎回の予習復習が欠かせない講座となりますが、今回、ほぼ履修学生全員から高い評価を受けており、本試験の複数合格に期待したいところです。
54	都市計画	1 Q	安藤 淳一	都市計画は自分の住むまちに存在する問題として捉えることで、理解が深まると考え、授業の中で研究課題に取り組んでもらっています。その研究・発表内容、着目した問題点とその解決のための方法を受け売りのことばではなく、自らのことばで語っている学生の成果について評価しています。今後も都市問題として、どのようなところに着目すべきかなどを伝えられるような授業に取り組みたいです。
55	一級建築士演習Ⅰ	1 Q	伊藤裕・君	本演習は一級建築士受験のための特別な講座であり、授業時間は一級対策問題を解くため、事前学習をしないと意味がありません。そのための教材を用意していますので、何とかな勉強時間を確保して取り組んで欲しいと思います。また、小テスト後に質問をしないけれど分からないと感じている学生もいたようですので、遠慮せずに積極的に質問してもらえたらと思います。
56	応用物理	1 Q	伊藤 裕康	履修者5名未満ですが、コメントします。履修者が少なかったこともあり、気軽に質問できる環境ができて非常に熱意をもって授業に臨んでくれました。学生ひとり一人の要望に応えながら授業を進めることができました。このような授業環境を今後も構築していきたいと思ひます。
57	建築士のための基礎数学	1 Q	横山 哲也	学生の理解度を確認しながら講義を行う。
58	デザイン概論	1 Q	北嶋 洋一	時間配分や授業のボリュームなどに難点があったようで、話すスピードなども含めて最も改善が求められている点であると感じた。授業の内容が難しいとの意見もあるようだが、デザイン分野に於いては基本的な知識付けに必要な内容なので、これを軽量化するわけにはいかない。但し、もっと図版や動画などの視覚効果を用いて、分かりやすさについては工夫していかなければならないものと考えている。
59	北国の建築と住まい	1 Q	安藤 淳一	多くの内容を解説したいとの感想により、使用するパワーポイントのページ（つまり情報量）が多くなり、その説明のためにページの展開スピードが速くなってしまいます。その点のご指摘がございましたので、今まで以上に情報を厳選し、今まで以上にゆとりと丁寧な説明を心がけていきたいと思ひます。

2025年度 授業改善アンケート第1Q「教員コメント（学生に対するフィードバック）」

No.	講義名	期間名	氏名	教員コメント
60	建築構造力学Ⅲ	1 Q	小笠原 健	この「建築構造力学Ⅲ」の講座は、建築学科専門科目の中で最も難易度の高い講座と言えます。建築士受験科目の一つとして大変重要な科目であり、二級建築士試験レベルとなる建築構造力学Ⅰ・Ⅱの講座で、ある程度の実力を修得していなければ、一級建築士レベルのこの講座の学習についていくのは、かなり難しいものとなります。毎年ながら、多くの履修者には、その基礎的なスキルを修得していない学生が多く、講座開講当初は、建築構造力学Ⅰ・Ⅱの復習をせざるを得なく、限られた講義数の中で、タイトな講義スケジュールとなってしまうています。よって、講義について来れなく、定期試験でも落第してしまう学生も少なくありませんが、履修者からのアンケート結果では、それなりに高い評価を受けています。今後は、基礎講座となる建築構造力学Ⅰ・Ⅱのレベルアップが、この建築構造力学Ⅲの充実の前提条件となりますが、今回は、通常の講義に加え、解説プリントなどの配布や個別指導、個別補講などで一定のスキルを修得させることができたと思いたします。
61	建築の機能と倫理	1 Q	君 興治	建築は50年・100年と長く建ち続けるものです、それを作り出す建築士が自分のことばかりでなく他人のことや、地域のこと、未来のことを考えることができる人間になるために、学生と教員が意見を交え自分に無い考えを知ることができるような授業の進め方に取り組みたいと考えております。
62	マーケティング論	1 Q	田中 修身	テストに向けての振り返りをもっと早い時期にやってほしいとの意見が散見されました。この点は次回以降留意したいと思います。また、実際の企業活動においてマーケティングがどう生かされているのかを事例で説明することが、マーケティングに興味を持ってもらうために重要と考えて講義しましたが、話が長かったかもしれません。次回以降はメリハリをつけた講義と学生にもっと参加してもらえ工夫を考えます。
63	中小企業論	1 Q	石山 玄幸	学生達から評価を頂いたことに感謝します。当該講義は、1年生の第1Qということで、学生に経営学の基礎を学ぶことに主眼を置いて講義を進めています。特に、話が面白かったというコメントは何よりも嬉しいです。これからも学生達に経営学を身近に感じてもらえるような講義内容な資料作りを工夫していく所存です。
64	スポーツ行政学	1 Q	三嶋 康嗣	講義内容としてスポーツ行政組織やスポーツ関連法規やを知り、スポーツ観やスポーツ事業の仕組みを理解していくことが目標となる。例年80～90名程度の履修者であるが、本年は約120名の履修者となった。その点において多くの学生へフィットしやすい教材の切り口にする工夫が必要と考える。
65	体育史	1 Q	尾西 則昭	コメントありがとうございます。皆さん方からいただいた授業改善アンケート評価を次年度に向けた現場で活用できるように資料等、工夫と改善、アイデアに努めていきます。ありがとうございます！
66	経営マネジメント論	1 Q	五ノ井 壽一	より授業に興味を持ち、理解を深めるようにさらに鋭意、努力いたします。
67	経営分析論	1 Q	石山 玄幸	当該講義は、カリキュラム編成の関係で、今年度が最後の講義となりました。経営学部の講義の中でも、難易度の高い講義でしたが、学生達がしっかりと聴講してくれたことで、今年度の合格率は過去最高を記録しました。次年度は、財務分析論という科目に変更になりますが、引き続き、学生の理解と試験の合格率を高めるために、講義の内容を検討していく所存です。
68	コーポレートフィナンス論	1 Q	岩立 顕一郎	コーポレート・フィナンスという日常ではなかなか馴染みのない講義に興味をもって参加してもらったことを嬉しく思います。また、初回において講義中に取り上げて欲しいことの希望を出していただき、極力その内容を盛り込んだことで、少しでも金融に興味を持って頂けたのかなと思います。一部マイクに関して不十分であったところは今後注意しつつ対処していきたいと思っています。
69	スポーツとヘルスカア	1 Q	佐藤和・三嶋	スポーツとヘルスケアに興味を持ってもらいスポーツにおけるコンディショニングの基礎的理論を理解してもらうことを意識し、プロジェクターを使用しながら授業を進め、授業の最後に必ず振り返りの課題をおこない内容の理解度を確認してきた。今後は実践的な応用に繋げられるよう工夫していきたいと思う。
70	国際経営論	1 Q	信濃 吉彦	この科目は、今年で開講終了となります。概ね良い評価ありがとうございます。
71	産業社会論	1 Q	山本 一彦	全体的な理解度は一定の水準に達していると思われる。限られた教書表記を基に、考えるべき事項等を受講者が気づけるよう授業展開を心掛けたが、概ね達成できたと受け止めている。一つ考えさせられた点は、最優秀評価Sを得た受講者の80%が留学生であったことで、日本人学生の履修意欲をより高める必要を感じることとなった。
72	コミュニティ心理学	1 Q	吉澤 英里	アンケートの回答をいただき、ありがとうございます。また、授業に参加していただき感謝します。プレゼンテーションの準備・発表については、私の力だけではコントロールできず、学生さんの都合に左右されるものです。準備期間については検討をしたいと思います。
73	ビジネス英語	1 Q	石田 暁子	学習態度が中途半端な面がみられる場面で、何度か注意をしてしていました。不合格者が出ることをとても心配していましたが、結果は全員合格点に達したので、ほっとしています。
74	地域情報論	1 Q	猪尾 紀幸	地域情報論では地域自治体の現在の状況や取り組み事例を取り上げながら、学生の興味関心が持てるよう進めてきました。また、スライドの工夫や自治体のホームページや紹介動画等を活用しながら実際の情報、データなどに触れて学習の意欲喚起を図ってきました。引き続き事例を活用しながら講義を行っています。
75	スポーツ原理	1 Q	高井 雅一	授業内容の中で、グループ討議や発表など多く取り入れ、学生主体の授業を展開することで、ある程度、良い評価をいただいた。次年度は、更に、全員が自己の考えを発表できる場を増やしていきたい。
77	アグリビジネス論	1 Q	石山 玄幸	当該講義は、今年度を持って終了となる講義でした。今年度は受講生が6名ということで、フィールドワークとして酪農学園大学へ見学に行くことができました。その見学良かったという意見も多く、座学だけではなくフィールドワークの重要性もあらためて感じたい次第です。今後、アグリビジネス論の講義が開講されることはないかと思われますが、将来、農業系の就職を考えている学生は、遠慮なく、私の研究室に相談に来てもらえらと思います。
78	デジタルデザイン	1 Q	上坂 恒章	今回は、自由記述が多く個々の学生の率直な評価として紹介する。「最終課題は難しかったが理解が深まった」「一番楽しい授業だった」「事前にスケジュールを教えてもらったので、計画的に進めることができた」「一方的な授業ではなく、こまめに教えてくれたので、内容の理解に困ることがなかった」「丁寧に一から教えてくれたのでかなり学ぶことができた」「聞けばしっかりと教えてもらった」等の意見があった。一方、「もう少しゆっくり」という意見と「楽しかったがテンポが遅いと感じた」との相反する意見もあった。一昨年までセメスター科目として、「デジタルデザイン1、Ⅱ」の2科目で1年を通して授業を進めてきたが、昨年から1科目となり、更に、クォータ科目となったことから、事前、事後学習をする時間の確保が難しい、最終課題を制作する余裕のある時間が取れないなどがあったが、各学生が積極的に学び、修得目標としての完成度の高いデジタルグラフィクス作品を制作することができた。
79	ビジネスリサーチⅡ	1 Q	信濃・河野 石山・小林	ビジネスリサーチⅡは、ビジネスリサーチⅠに続き、ビジネスリサーチ演習へ向けた基礎的なことを学ぶ科目となっています。一部の受講学生から、オムニバス形式で実施する際の課題を頂きましたので、次年度に向けて、改善していきたいと思っています。受講生から率直なコメントを頂いたことに感謝します。
80	アントレプレナーシップⅠ	1 Q	阿部 裕樹	今回の授業に対して、多くの前向きなご意見をいただき感謝しています。資料の事前配布や具体例が理解に役立ち、アントレプレナーシップに興味を持つきっかけとなったことを嬉しく思います。今後も分かりやすさと興味喚起に努め、試験形式も早めに案内できるよう改善していきます。
81	教職論	1 Q	木村 浩紀	教師になるための最初の授業で満足度が高かったのは良かったです。毎回のレポートで教師になる意気込みを感じることができました。採用試験の前倒しで準備期間が短くなっていますが、関係する授業等を大切に知識を蓄えてほしいと思います。この授業では生徒間や私とのディスカッションの時間も多かったので、授業や教室環境の改善についても一緒に取り組むことが可能です。自分が教師になることをイメージしながら、授業や環境がさらに良いものになるように、できることは自ら行動したり、主張したりしてみましょう。複数の教師でティームティーチングを行うことがありますが、その練習も兼ねて取り組むことで主体的な学びになると思います。今後も大学生らしい学びを一層考えていきます。
82	教育心理学 (S)	1 Q	吉澤 英里	アンケートの回答をいただき、ありがとうございます。概ね良い評価をいただいたので良かったです。いただいたご意見については今後の改善に活かしたいと思います。
83	教育心理学 (MDA)	1 Q	吉澤 英里	アンケートの回答をいただき、ありがとうございます。概ね良い評価をいただいたので良かったです。いただいたご意見については今後の改善に活かしたいと思います。
84	道德教育の指導法	1 Q	佐藤 雅一	今期は概ね授業内容を達成できましたが、一部シラバス通りに授業進行が出来なかったことを申し訳なく感じております。また僕の言語障害についてはPC等を活用し、より授業趣旨を伝わり易く心がけます。次年度以降、現場の教員を派遣してもらいより学校教育の場との乖離を減らします。
85	教育相談(カウンセリングを含む。)	1 Q	蝦名 美穂	今年度は、受講生が自ら調べ、その結果をまとめ発表するという学びの形態を取り入れました。その上で、教育相談というものをどのように取り組むことができるかと考えました。時間の都合上、事例討議の時間が少なかったことが次年度に向けて改善していきたいと思っています。
86	生涯学習概論	1 Q	藤根 収	アンケート提出ありがとうございます。概ねよい評価をいただきましたが、何度か注意してもやめなスマホの利用やおしゃべりする学生に対する対応方法について意見をいくつかいただきました。どの人も気持ちよく学べる授業環境作りに努めたつもりでしたが、130名以上の授業において十分至らない点もあったかと思っています。今後改善に向けた参考にさせていただきます。